

## 競技・審判上の注意

- 1 この大会は、令和7年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および大会運営規程ならびに公認審判員規程、令和7年度東京都中学校体育連盟バドミントン部大会実施上の規程により行う。

### 【使用用器具等】

- 2 使用用器具は、（公財）日本バドミントン協会検定・審査合格用器具及び検定合格シャトルを使用する。
- 3 プレーヤーは、マッチ中、ステンシルマーク入りのラケットを使用してはならない。
- 4 気温の上昇に応じて空調（冷房）を使用する。
- 5 競技用ウェアは、（公財）日本バドミントン協会審査合格品とする。上衣背面中央部には、縦20cm、横30cmの範囲内にチーム名及び姓の表示をすること。その際に、競技用ウェア上衣背面にロゴや規定外の文字を直接プリントしている場合は、ゼッケンを用い、四隅を留めてそれを見えないようにすること。また、表彰・入退場・あいさつの際には、上衣の裾は下衣の中に入れること。
- 6 上衣の背面中央に必ずチーム名を明記する。ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦20cm、横30cmの大きさを基準とする。（ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とする。）文字列、背番号は視認性の高い文字（楷書体・明朝体またはゴシック体のような文字、数字（算用数字））を使用し、文字、数字の色は上衣背面の文字列、背番号表示部分の色と明確に区別できる色とする。  
※アルファベットを用いる場合は、大文字を使用することを推奨。
- 7 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁良く結ぶこと。ヘアバンド、リストバンドの使用は認めない。特別な事情がある場合には本部に相談すること。インナーについては、露出する場合は、審査合格品とする。
- 8 ベンチまたはコーチ席に入る場合は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。例えば、チームユニフォーム（Tシャツの場合、チーム名の表記があること）・シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズや七分丈パンツ、バミューダ、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。その適否判断は大会レフェリーに委ねるものとする。また、コーチ席に座る者全てにこの規定（公認審判員規程第5条12項（8））は適用される。  
※今大会は、記念Tシャツ、広告やスポンサー名およびスポンサーロゴ、都道府県名のみ表記の服装は禁止とする。

### 【試合進行】

- 9 団体戦のマッチ順序は、D1→S→D2 の順に行い、2マッチ先取で打ち切りとし、その後のマッチは行わない。試合の進行状況により、2、3コート並行で実施することがある。
- 10 競技開始30分前を目安にオーダー用紙を提出すること。対戦相手決定後の10分後を目安に提出すること。
- 11 タイムテーブルに基づいてマッチを進行する。進行状況により変更することがあるので放送に注意すること。
- 12 簡易的な選手招集所を設ける。放送による招集後、招集所へ集合する。その際、指定された入場口から入場すること。
- 13 マッチが連続する場合は、次の試合までに少なくとも10分間の間隔を取る。
- 14 全参加チームが予定時に安全な帰着困難が予想される場合（災害、交通状況等によって）は、新たにタイムテーブルを組み直し、代替スコアリングシステムに変更し運営する。もしくは中止にする場合がある。

### 【入場時の携行品】

- 15 競技フロアに持って行くものは、交換用ラケット（ケースから出しておく）、着替え用競技用ウェア、タオル、水筒・スクイズボトル等のドリンク、コールドスプレー類、滑り止め剤までとし、各自のバッグ等に収容する。救急セット、その他のものはベンチまたはコーチ席に置くこと。

### 【主審の許可】

- 16 水分補給、汗ふき、靴ひもの直し、滑り止めの使用、ストリングス（ガット）を切ることについては下記の点に留意し、必ず主審の許可を得てから行うこと。マッチ（試合）を中断しないように心掛ける。  
（1）水分補給の際は水筒・スクイズボトル等（スクイズボトル・スクイズボトルキャリア・真空断熱スポーツボトル）

を使用すること。また、熱中症対策として個人が所有している水筒等(カバー付きのペットボトル)も併用して持ち込むことも可能とする。コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しないので、バッグ等を持参し、コートサイドに置き、ドリンクも各自のバッグに収容すること。

- (2) 氷嚢の使用はインターバルのときのみ認める。また、フロアー内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止するが、ベンチまたはコーチ席の下に入るような小さいものは持ち込みを可とする。ただし、ベンチまたはコーチ席の下に置き、フロアーを濡らすことのないように十分注意すること。
- (3) 団扇については、インターバル時のみ使用を認める。ただし、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
- (4) シューズの滑り止め(シューダスターボードなど)の使用はインターバルのときのみ認める(主審の許可は不要である)。プレー中はコートサイドに置いたままにせず、コーチ席に置くこと。
- (5) ラケット交換時にストリングス(ガット)を切ることについては、プレーが不当に中断しない範囲で、素早く切ることができる場合に限り認められる。

### 【スコアリングシステム】

17 すべての種目を21点3ゲーム(ラリーポイント制)にて行う。スコアが20-20になった場合、その後2点リードをしたサイドがそのゲームの勝者となり、29-29になった場合には、先に30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となる。

### 【サービス】

18 サービス時、シャトル全体が必ずコート面から1.15m以下でなければならない。

19 サーバーは、スピンを加えずにシャトルを放し、ラケットで最初にシャトルの台を打つものとする。

### 【インターバル】

20 すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。また、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。また、インターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。

### 【アドバイス】

21 シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中のアドバイスを受けることができる。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意すること。プレーヤーはインターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。コーチ席に座る者はインプレーでなくなった場合のみ移動できる。

22 インターバル中に、コートでアドバイスできるのは2人までとする。プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「…20秒」のコールでコートから離れなければならない。(所定の席につくこと)

### 【抗議・異議、質問】

23 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。審判員の判定に対して疑問がある場合には、次のサービスがなされる前に、またはマッチ終わりであれば訴えるサイドがコートを離れる前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦では当該プレーヤーと監督に限り「質問」をすることができる。

### 【注意・警告・フォルト・失格】

24 以下の違反をしたサイドに主審は警告をする。一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとする。目に余る不品行な振舞い、執拗な違反には、その違反したサイドをフォルトにする。一つのサイドによる警告後の違反行為によるフォルトは執拗な違反とみなされる。

- (1) 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
- (2) アドバイスを受けることによるプレーの遅延
- (3) インプレー中にアドバイスを受ける違反
- (4) プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
- (5) シャトルのスピードや飛び方を変えるために故意にシャトルに手を加えたり、破損したりすること
- (6) 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
- (7) ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
- (8) 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
- (9) 競技規則を越えた不品行または不快な行動